

令和4年度 佐渡市博物館協議会 評価票

資料No.3

博物館協議会における目的・方針

目的	博物館の運営状況について評価を行なうとともに、その結果に基づき博物館の運営改善を図るため必要な措置を講ずる。
方針	博物館が主管する事業の計画・実行・評価・改善に関することや所管施設に関すること等について、博物館館長および職員とともに考え活性化を図る。

- 職員及び委員評価欄に、方針の達成度をA～Dの記号で記入。
- A： 十分達成できている
- B： おおむね達成できている
- C： 努力を要する
- D： 成果がない

評価項目	定量的目標 (数値目標または現状値)	計画		実績	評価			
		ねらい	具体的方策	数値	成果と課題	職員 評価	意見(協議会用)	協議会 評価
利用状況	・博物館及び資料館の来館者数 R8:66,000人 (佐渡市総合計画より)	・各博物館の利用を促進する。	①佐渡博物館 ②両津郷土博物館 ③相川郷土博物館 ④佐渡国小木民俗博物館 ⑤新穂歴史民俗資料館 ⑥相川技能伝承展示館 ⑦史跡佐渡奉行所跡 ⑧畑野鳥越文庫 ⑨佐渡植物園 ⑩幸丸展示館 ⑪日本アマチュア秀作美術館	①6,596名 ②610名 ③551名 ④10,992名 ⑤3,241名 ⑥3,170名 ⑦16,341名 ⑧426名 ⑨集計無し ⑩集計無し ⑪集計無し 計:41,927名	新型コロナウイルス感染症の影響に伴う入館者数の減少に歯止めがかかり、回復傾向にあるが、以前の水準には戻りきれていない。	B		
展示	・企画展開催数 R1:16企画展 ・来場者数 R1:12,617名	・佐渡の歴史・自然・文化に対する興味関心を高めるとともに、文化の保存に対する意識を醸成する。	計画:14企画展 ＜佐渡博物館開催分＞ ①宮本常一写真で読む佐渡(最終回) ②佐渡の人形芝居たち ③佐渡市所蔵刀剣展 ④鈍翁茶会関連展示「佐渡の美術・工芸」 ⑤布施伸介作品展 ⑥クジラ展 ⑦縄文と弥生展 ⑧他館:7企画展	①1,463名 ②1,341名 ③1,620名 ④598名 ⑤1,496名 ⑥2,071名 ⑦780名 ⑧6,248名 計:15,617名	企画段階でやりたいと思ったことは大枠では実施できたが、展示内容や打合せ内容から、会期直前で変更を余儀なくさせられ、企画の趣旨から逸脱する部分があったことから、打合せおよび議事録の作成の徹底、複数人対応などの対応が必要である。	C		
教育普及	・出前授業数 R2:12回 ・各施設でのイベント実施件数 3件 (文化振興アクションプランより) ・ワークショップ開催数 6件 (文化振興アクションプランより)	・佐渡の歴史・自然・文化に対する興味関心を高めるとともに、文化の保存に対する意識を醸成する。	①出前授業の実施及び宣伝 ②博物館を通じたワークショップやイベントの実施 ③学芸員による解説会等の実施 ④ジュニア学芸員養成講座の実施	①出前授業20件 ②ワークショップ・イベント7件 ③解説会等2件(企画展に付随) ④ジュニア学芸員養成講座6回×2期	年間通じて様々なイベント、ワークショップを展開し、アンケートでも満足を得た。一方、市の他部署の事業との内容の重複があり、博物館として今後も継続していく事業とすべきかどうかは効果の検証も踏まえつつ検討する必要がある。	B		
資料活用	・資料特別利用件数 R1:67件 ・資料撮影件数 R1:47件 ・資料貸出件数 R1:7件	・資料を活用した歴史文化への理解の促進、興味関心を高める。 ・博物館への利用を促す。	・資料特別利用申請に対応 ・資料撮影、貸出しに対応	特別利用41件 撮影件数18件 資料貸出10件	資料の貸出により他館や調査員等とのつながりの構築につながった。また、佐渡学センターから発信できていない資料の情報について、他館での展示や調査報告書により情報発信の一助となったが、佐渡学センターからの情報発信することができていない状況は変わらずである。	B		
調査研究	・研究報告書件数 1件	・調査研究を通じて資料等への理解を深めるとともに、展示や情報発信へつなげる。 ・学芸員としての資質向上を図る。	・研究ノート	1件	昨年度創刊号の発行により、研究ノートを資料として活用してくださる方が多数いたが、今年度、発行が原稿作成の遅れにより大幅に遅れた。	C		

令和4年度 佐渡市博物館協議会 評価票

博物館協議会における目的・方針

目的	博物館の運営状況について評価を行なうとともに、その結果に基づき博物館の運営改善を図るため必要な措置を講ずる。
方針	博物館が主管する事業の計画・実行・評価・改善に関することや所管施設に関すること等について、博物館館長および職員とともに考え活性化を図る。

- 職員及び委員評価欄に、方針の達成度をA～Dの記号で記入。
- A：十分達成できている
- B：おおむね達成できている
- C：努力を要する
- D：成果がない

評価項目	定性的目標 (行動目標)	計画		実績 (成果)	評価			
		ねらい	具体的方策		課題	職員 評価	意見(協議会用)	協議会 評価
資料管理	・資料の管理が適切に行われているか ・必要な資料の収集が適切に行われているか	・貴重な資料を後世へ受け継ぐ。	・展示環境、収蔵環境の温湿度管理や台帳を作成して資料整理をする。 ・年間に収集した資料が展示や事業で活用可能か不要か整理する。	資料の活用および保護の必要性について熟慮し、資料収集を行った。	美術・工芸品などは即活用できるが、歴史資料などの活用について方法を考える必要があり、目的(〇〇年度の企画展で使用 など)を明確にしたい。	C		
展示	・展示が来館者のニーズを満たしているか ・展示目標か達成できたか	・佐渡の歴史・自然・文化に対する興味関心を高めるとともに、文化の保存に対する意識を醸成する。	・常設展示、企画展示においてアンケート結果から見える利用者が望んだ展示をする。 ・各企画展開催時に目標を設定し、それを達成する。	年間を通じて、ニーズのある美術・工芸品の展示を行った。	美術・工芸品の展示内容の充実を図る必要がある。	B		
調査研究	・学芸員の調査研究が適切に行われているか ・調査研究の成果が広く公開されているか	・調査研究を通じて資料等への理解を深めるとともに、展示や情報発信へつなげる。 ・学芸員としての資質向上を図る。	・学芸員の発表(市民向けの講座や研究ノート、論文)内容において新たな知見を持つ。 ・展示や発表等に調査研究内容を活かす。外部に発信する。	学芸員3名が執筆した研究ノートを発行する。	今年度、発行が遅くなり、年度内において発表の機会をもうけたり、積極的な情報発信までは行えなかった。	C		
教育普及	・各種事業が目的及び成果を達成しているか	・佐渡の歴史・自然・文化に対する興味関心を高めるとともに、文化の保存に対する意識を醸成する。	各種事業開催時に目的や成果を設定し、それを達成する。	事業実施前においてはあらかじめ趣旨を明らかにし、事業計画を策定し実施した。	具体的な数値的目標や成果を図る指標は設定できていなかった。	B		
施設の維持管理	・来館者が観賞しやすい館内環境ができているか	・展示の鑑賞に集中してもらうための快適な環境を整備する。 ・資料を適切に保存し、後世へ受け継ぐ。	・館内の照明や空調、バリアフリー設備など利用しやすい環境を整える。	—	財政上の課題により、適切なタイミングでの修繕が行われなかった結果、施設の老朽化が著しく、維持管理に多大なコストが発生している。	C		
中長期的計画	・中長期的な博物館展示、事業計画が作られているか ・計画通りに博物館運営が行われているか	・市民等に対し新しい発見や楽しみ、感動を与える存在となるよう、持続的な運営を目指す。	3年から5年後までの展示および事業計画を作成する。	—	博物館の全体構想となる「博物館ビジョン」の策定が滞っている。今一度、課題等を整理の上、令和5年度は策定の作業を進める。	C		
情報発信	・博物館広報活動がどの程度成果をあげているか	・効果的な情報発信により博物館に興味関心を持ってもらい、利用を促進する。	・博物館の広報活動がどれほど入館者数に貢献しているか検証する。	—	各広報手段がそれぞれのくらい入館者数に貢献したか検証する手立てを用意していなかった。今後、アンケートの実施等により把握していくとともに、ペーパーレスやマスコットキャラクターの活用など効果的な検証方法を検討していく。	C		
地域連携	・地域との連携活動が行われ、地方博物館としての役割が果たされているか	・博物館を通じて地域住民の交流や地域活性化を促進し、地域から愛される博物館を目指す。	・地域と共同した取り組みを行う。	企画展である特定の地域の風習を取り上げたところ、その地域の住民が関心を寄せ大勢博物館に訪れた。	成果があった一方、地域と連携した取組までは進められなかった。	C		